

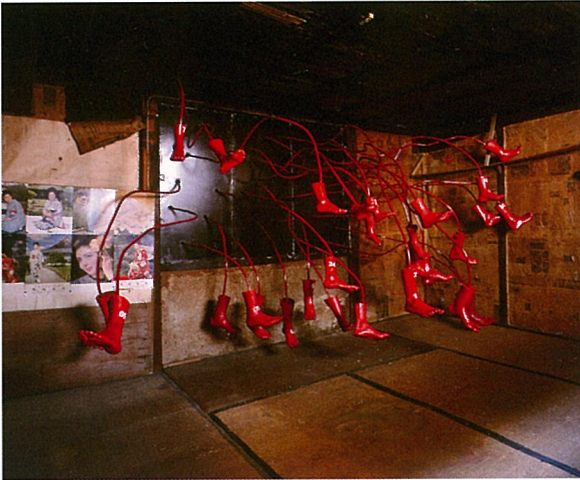
2004

北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト「interdependence. - Cのかたち -」

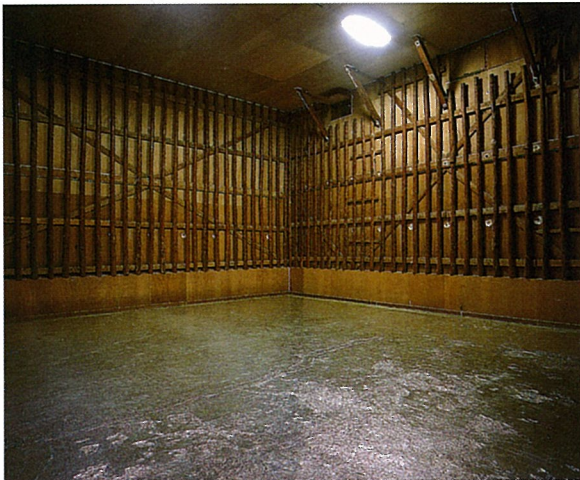
会期：2004年（平成16年）9月25日⇒10月23日

会場：長崎県南高来郡南有馬町

報告：和田拓治郎



櫻井友子《継続されるもの》2004 鉄、石膏
原城跡本丸と木造建築2階（写真）での展示



中村圭《Ground》2004 アルミ箔 インスタレーション

開催概要

展覧会の会場となる南有馬町は、長崎県島原半島の南に位置し、雲仙普賢岳をはじめとする多くの山々や、有明海に囲まれた美しい町であると同時に、島原の乱の舞台となった地としても、歴史にその名をとどめている。また、南有馬町は近代彫刻の巨匠北村西望の生誕地である。彫刻とは何か、芸術とは何か、生涯その答えを模索し続けた西望の芸術への情熱は、時代を経て現代の美術家の中に受け継がれている。

2004年、そうした場所の持つポテンシャルと美術家の関係に着眼し、相互依存（interdependence）をコンセプトに、12名の参加作家による美術展が南有馬町で開催された。参加作家は事前に町を訪れ、作品の構想を思考しながら展示場所を探し、その場所と“相互依存”する作品を展示することで、作家と南有馬の地によって生まれる情景が、西望を育んだ歴史ある地と現代美術、あるいは、地域と美術の新しい関係を示すこととなった。

この展覧会における「相互依存」とは、南有馬町のその地と参加作家の行為が生み出す、ここでしか見ることのできない空間の成立を意味する。来場者は、作品展示マップを手に、展覧会インフォメーションが設置された情趣的な旧米倉庫や、戦前に建てられたピンク色の公会堂等を探索しながら作品を鑑賞した。

また、参加作家によるワークショップ（子供達と様々な形をしたテトラポッドを制作）等も実施することで、難解だと敬遠されがちな現代美術の現場に触れ、美術の多様な側面を感じることもできる、より開かれた印象の展覧会を目指した。

主催：南有馬現代芸術プロジェクト実行委員会 共催：南有馬町、原城観光協会 後援：朝日新聞社、エフエム長崎、NIB 長崎国際テレビ、NHK 長崎放送局、NCC 長崎文化放送、NBC 長崎放送、KTN テレビ長崎、島原新聞社、島原鉄道株式会社、長崎県、長崎県教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、原城温泉真砂、毎日新聞社、南有馬町教育委員会、読売新聞長崎支局 助成：(財) 松園尚己記念財団 協力：ANA、鬼塚石材工業、財団法人泉美術館、小野寺和憲、株式会社有馬、株式会社松尾組、くちのつ石材店、沢電器商会、島原雲仙農業協同組合、島原半島南部漁業協同組合、なかむら電器、中村電気工事店、林田土建有限会社、松尾印刷所、宮崎家具店、八幡神社、marini monteany 企画：αβ Project

参加作家：伊東敏光、木村東吾、櫻井友子、佐藤時啓、チャールズ・ウォーゼン、中村圭、長岡朋恵、野島泉里、林武史、前川義春、森淳一、和田拓治郎（12名）

Web：http://minamiarima-ap.jp/